

# 佐渡米通信

# こめへる

2019年 10月号

発行日:2019年10月

編集人:佐渡農業協同組合 営農事業部米穀販売課 藤巻  
Jasadoeinoubu20@dune.ocn.ne.jp

## 収穫前最後の指導会が行われました

「適期は圃場により違います。それぞれ圃場の適期を逃さずに、刈遅れによる胴割れ等を発生させないようにしましょう。」とJAの指導員から説明が行われました。刈取り適期確認のコツとして、春に生産者に配布した佐渡米カレンダーを活用する方法と“白カルトン”を使った黄化率の見方についての説明もあり、農家各々が持ち寄った自らのほ場の稲穂で実際に確認していました。



佐渡米カレンダーの、「刈り取り適期見本版」

## 「ASIAGAP」の団体認証を取得!

「JA佐渡ASIAGAP研究会」に所属し、稲作を手掛ける3農家・2法人が、7月に「ASIAGAP」の団体認証を取得しました。

団体認証の取得は、2017年から準備を進め、2018年5月に農家数人と学習会を開始しました。その後、1年かけて3農家・2法人と共に認証取得の為に研究を重ね、2019年1月に研究会を設立、4月には認証審査を受けました。8月下旬に佐渡市長への認証取得の報告が関係者によって行われ、市長からも「市としては主に更新への支援予算を計上しているため、取組農家を拡大し継続して欲しい」と支援していくことを示しました。



左から佐渡市長・永井会長・仲川会長

## 待ちに待った稲刈り開始!

8月下旬より飼料用米の新湯次郎、9月1日からはうるち米のこしいぶきの稲刈りが始まりました。今年は気温が高い日が続き、稲の生育が旺盛でしたが、お盆過ぎ頃から涼しい日が続き、登熟もゆるやかになったため、結果として刈り取り開始は「昨年並み」となりました。コシヒカリの刈り取りは、21日から23日の連休中にピークを迎えると思います。



稲刈りの様子をご覧ください



## 初検査結果の報告

令和元年産米の初検査が行われました。早生品種のこしいぶきやゆきん子舞、酒米の五百万石など11,468袋の検査が行われ、1等米の比率は88.3%でした。検査員による講評では「今年は粒張り及び粒ぞろいが平年並みだが、高温による影響で若干の白未熟粒が見られる。」とのこと。更に農家に向けては、「今年は高温であったので、胴割れが出やすいため、乾燥調製作業は丁寧にやってほしい」とのコメントがありました。(検査結果と乾燥作業の注意については、農家向けにメールで一斉送信しました)

### お米の検査の手順



成分分析機でタンパクやアミノ酸値、食味値を記録し、検査終了となります。



米袋から約20gの玄米を取り出し、見取り箱に入れます。



見取り箱の中には20枚の四角い皿。1枚の皿に1袋分の玄米。



水分を測定し、等級が決定したら…。



見取り箱の皿から1皿ずつ玄米をカルトンに広げて、整粒の割合を確認します。その際にカメムシ等の被害粒も合わせて確認。

